

# 5. 戸籍事務支援

## Contents

### 派遣報告書

みどりまちづくり部 山本 真由美 (任務：戸籍事務支援)

### 職員手記

みどりまちづくり部 山本 真由美 (任務：戸籍事務支援)

### 派遣報告書

総務部 林 直子 (任務：戸籍事務支援)

### 職員手記

総務部 林 直子 (任務：戸籍事務支援)

## 派遣報告書

みどりまちづくり部 山本 真由美 (任務：戸籍事務支援)

派遣先：岩手県大槌町

派遣期間：平成 23 年 11 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日

平成 23 年 11 月 1 日から平成 23 年 12 月 28 日までの 2 ヶ月間、東日本大震災により被災した岩手県大槌町に戸籍事務等の支援職員として勤務してきました。

大槌町役場で勤務する中で感じたことを中心に報告したいと思います。

### 【派遣決定から出発まで】

震災直後日々報道されるショッキングな映像を見て、自分に何かできないか？と悶々と思いながら過ごしていた。震災から約 1 ヶ月後、戸籍事務の支援として被災地への派遣が打診され、「行きます」と迷いなく即答したのを昨日のこのように覚えている。物事を慎重に決断する性格の私にとってこの行動は自分でも信じられないのだが、潜在的な力によって押し出された反応なのかもしれない。

しかし戸籍事務の経験年数が 1 年で、5 年近くのブランクがあったため赴任先で業務ができるかどうか不安に感じたのも事実である。戸籍事務は日々窓口で対応する中で必要な知識やセンスが培われるものである。研修テキストや実務六法など読んで復習するものの、被災地ではイレギュラーな事務も要求されるため、私の不安は高まるばかりであった。そんな不安を解消するため、派遣前に窓口課で業務研修をさせていただく機会を設けていただいたことは有り難く感じている。出発直前は多少の不安はあったものの、次のことを心がければ多少の知識不足もカバーできるだろうと思い、常に意識して行動するようになった。

- ① (支援に来たというよりも大槌町役場に異動したという感覚で) 大槌町の職員と同じ立場で仕事をする。



仮設庁舎前の様子

②町民の感情は全て（哀しみ、不安、怒りなど負の感情全て）共感と愛情でもって受け入れる。

### 【赴任したときの大槌町の様子】

岩手到着直後、関西広域連合の方に大槌町役場まで案内していただいたのだが、内陸から沿岸部へ進むにつれ、震災の爪痕が生々しく残る光景が現れてくる。戦後の焼け野原とでもいうような、市街地が全て流された状態だ。事前に周辺の写真等を見ていたのだが、現地に足を踏み入れ、実際自分の目で確認したとき、あまりのショックで言葉を失い涙が溢れるばかりであった。と同時にこれから2ヶ月間この地で勤務するのだと、改めて身が引き締まっていくのを感じた。

旧庁舎は津波で流され、正面玄関の前には地震発生後災害対策会議をしていた最中に犠牲になった当時の町長や幹部の職員を哀悼するため花が供えられており、その様が何とも切なさを感じさせた。



大槌町旧庁舎



ひょうたん島のモデル、蓬萊島。正午にひょうたん島のテーマ曲が流れた

### 【大槌町役場での業務内容】

赴任初日の辞令交付の際、碓川町長は「お好きなのをどうぞ」と自ら描かれた絵葉書を差し出し、派遣職員の緊張を解いてくれた。全て流された町の復興という重責を担うリーダーは、その重責に力むことなく穏やかな方のように私は感じた。ただ、一人一人辞令を交付しながら、「よろしくお願いします。」と握手を交わす手からは、その穏やかな口調からは想像できないほどの力強い握力を感じ、復興への決意が深々と伝わってきた。



町民課の仮設庁舎

碓川町長自筆の絵手紙



町民課は、町民生活班と国保年金班の2班で構成されている。私が配属されたのは町民生活班で、戸籍・住民票等の窓口業務の他に、箕面市でいうと動物担当、環境政策、消費生活、選挙管理委員会事務局等の事務も担当しており幅広い業務内容をカバーしている。

町民課は明るい雰囲気、窓口業務の感覚を取り戻すのに時間がかかった私を温かく受け入れ、サポートしてくれた。東北弁が聞き取れず何回も町民の方に聞き直しても、「よそがら来だの？遠くがらご苦労様。」など温かい言葉をかけていただき、支援にきたはずなのに、逆に支援されているような感じで精神的に助けられたと思う。

担当していた戸籍業務であるが、ほとんどが死亡届で行方不明の死亡届と遺体の身元判明した際の手続きが主である。行方不明の死亡届は次のような事項を遺族の方に聞き取りし、調書を作成しなければならなかった。

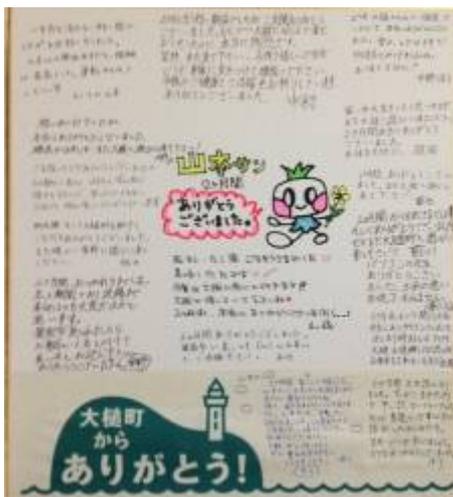
- ・津波発生時に本人がどこにいて何をしていたと想定されるか。
- ・目撃者がいればその目撃情報。
- ・避難所や遺体安置所を探したかどうか。
- ・自宅は流されたか。
- ・最後に連絡をとったのはいつか、本人とどれくらいの頻度で連絡を取り合っていたか 等

内容が非常にデリケートで窓口対応には細やかな配慮が求められるうえ、被災された方に辛いことを思い出させてしまうことへの申し訳なさ、また津波を体験していない部外者に対して申述することに抵抗を感じる人もいないか、などいろいろな感情が複雑に混じり合い、最初は窓口に出るのに勇気が必要であった。また、感傷に浸らずすべきことをするという冷静さと遺族の哀しみに対する共感という感情のバランスが必要であり、かなりの神経を使った。

遺体の身元が判明した際の手続きは、すでに火葬されて町内のお寺に一時保管されている遺骨を引き取る際に必要な埋葬許可証を発行するのが主である。身元が分からないため、すべて一連の書類は遺体の識別番号が記載されている。番号を間違えば遺族の方に他人の遺骨を渡してしまうことになるので、慎重に事務手続きを行う必要があった。

私が赴任したのは震災後 8 ヶ月を経過していて、その“時”の感覚というのは被災された方それぞれ違うものであり、窓口で求められる姿勢もケースバイケースになる。考えに考えて、気持ちも整理しきって死亡届を出される方、申述書を書いているうちに、泣きながら気持ちが変わったと出すのをためらう方、さまざまである。また、町民と役場の心理的距離が近いため、職員に身近な方が死亡届を出しに来られた場合など、町民課の職員もさぞかし辛かっただろうと思う。そして、何より切ないのはそのような業務が日々当たり前に行われるその現実である。仕事をする上で冷静に対応しなければと思うのだが、身元判明された遺族の方に遺品を渡したとき窓口で号泣され、私もかける言葉がなくもらい泣きしてしまったことがある。大阪に帰ってからも、被災された方に 1 日でも早く心の平穏が訪れることを切に感じている。

町民生活班の業務は通常に戻りつつあったが、戸籍の附票（住所の変遷を証明するもの）が発行できない状況であったので、窓口業務の合間を見ながら事務作業を進めた。戸籍と住民票のデータを連携させて生じたエラー（3,000 件以上）を 1 件ずつ確認し、必要があれば他の市町村役場へ電話照会し、データを復旧させていく。地道で気の遠くなるような作業であったが、1 日でも早く発行できるよう尽くした。（2 月 1 日から発行可能になったとのことである。）



町民課の皆さんからいただいた色紙 私の心の支えとなっています



役場近くにリニューアルオープンした商業施設「マスト」。近隣住民が待ち望んだ本格的なショッピングセンターで、復興の後押しになっている。

### 【生活面等について】

業務はもとより、私にとっての最大の懸案事項は派遣中の健康管理と毎日の車通勤であった。

慣れない土地で体調を崩して、かかりつけでない病院を受診することは一番避けたかったので、日々の健康管理には細心の注意を払った。幸い、仮設住宅には必要最低限のものは全てそろっており自炊ができる環境であったので、健康管理の基本である食生活を普段と変わりなく送ることができたのが自分にとっては最善だったのだと思う。ホテル住まいをしている派遣職員からは毎回の外食が辛いと聞いていたので、有り難い環境であった。

日常的に車に乗らない私が人生初めての、しかも全く見知らぬ土地での車の通勤は慣れるまでかなり緊張したが、車の通行量も少なく、大阪と違って無茶な運転をするドライバーもいないので次第に慣れた。ただ、通勤時目にする曲がったままのガードレール、津波に流された町並みを見慣れてしまっている自分に気づいたときは何ともいえない気持ちになった。

週末は努めて内陸へ遠出するよう努めた。のどかな環境にあった仮設住宅であるが、周囲は店もなく1日中閉じこもっているのも精神衛生上よろしくない。岩手の様々な観光地を訪れた。震災後東北への観光客も減少しているため、少しでも多くの観光地を訪れお金を落とすことも派遣職員のもう1つの使命だと感じたからである。以前から訪れたいと思っていた、世界遺産に登録さ

れたばかりの平泉を訪れることができたのは感慨深かった。



世界遺産、中尊寺金色堂  
岩手県民の心の拠り所となっている



国定公園浄土ヶ浜（宮古市）  
津波でこの海岸も大量の瓦礫で埋め尽くされた

### 【おわりに】

振り返ると、2ヶ月間毎日全力で過ごしていたように思う。町の復興を目指して一丸となった組織は言葉で伝えられない気迫があり、私も信じられないほどの潜在的な力が無意識に出ていたのだと思う。そのため、2ヶ月間という時はまるで1年間にも思えるほど凝縮し、充実したものであった。

自らも被災し、家族や知人などを失い心に傷を負いながら、それでも愛する町と町民のために日々懸命に業務をされる職員の方々には本当に頭が下がるばかりである。私が同じ境遇なら？と自問自答したが、恥ずかしながらその問いに未だ私は自信を持って答えることができない。しかしながら、このような非常時で仕事をするという機会を得、災害時に必要とされる市職員の意識を再認識することができたのは貴重だったと思う。

また、他の自治体職員の方と一緒に仕事をすることができたのも、自分にとって良い刺激になった。町民課には、盛岡市と東京都千代田区からも職員が派遣されており、それぞれ派遣期間が異なるため、絶えず職員が入れ替わりしているのだが、派遣初日から事務が比較的スムーズに流れ、職場にも自然にとけ込んでいくのが驚きであった。派遣も含めた全職員の使命感、組織としての一体感がそのような空気を生み出すのだろうか。私も比較的早く職場に慣れることができ、よかったと思っている。

大阪に帰ってからは、震災関係のニュースを以前と違った気持ちで聞いている私がいる。2ヶ月という短い期間であったが、岩手の方の温かさに触れ、第3

の故郷のように感じているからだろうか。大槌町を始め、被災地が 1 日でも早く復興し、被災された方々が心から安心して生活できる日が訪れるよう祈っている。

最後に、今回このような貴重な機会をいただけたこと、また、派遣中の生活を支援していただいたこと、心から感謝いたします。

**職員手記**

みどりまちづくり部 山本 真由美 (任務：戸籍事務支援)

派遣先：岩手県大槌町

派遣期間：平成 23 年 11 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日

**【組織の意志決定等について】**

被災地での任務を無事果たすことができ結果的に良かったと思っておりますが、出発前は職員課と市民安全政策課の連携がきちんとできているのだろうか？と心配になる場面が数々見受けられ、かなり振り回されて非常に辛い思いをしました。災害などの非常時においては、組織として迅速に意志決定をし、またその決定事項を正確に、かつ決まったラインで伝えることが重要になると思います。

**【心のケアについて】**

被災地での経験は非常に貴重で、このような機会をいただいたことに感謝しています。帰ってから周囲の人に自分の経験を話すのですが、うまく説明できないもどかしさ、行った者にしか分からない感覚等があり、疎外感を覚えました。

派遣中は、使命感、責任感、ほぼ壊滅状態の町の光景を日々目にする中で無意識に生じる本能的な防御反応、町民や職員の哀しみを感じつつその感情を抑えようとする反応、復興支援に携わることができる喜び、仕事への充実感、満足感など、正負の感情が一時期に一気に生じていました。今振り返れば心身共に極度の緊張状態で過ごし、かなり疲労していたはずなのに、高揚感からそれに気づくことができなかつたのだと思います。被災地という非日常の環境が日常になりつつあった頃に帰阪し、元いた場所に帰ったはずなのに違和感を覚え、環境、時間の感覚、緊張感…、様々なギャップを感じて心身のバランスを崩してしまいました。

なぜそのような状態になってしまったのか、最初は分かりませんでした。幸い、被災地派遣を経験されていた職員課の保健師さんのカウンセリングを受け、同じ体験を共有し、押さえていた心の感情を再生することで少しずつ

回復することができています。

帰阪後、「惨事ストレス」という言葉を初めて聞き、調べてみると自分も似たような症状が出ていると思いました。出発前は赴任地で任務を果たせるかどうかばかり心配していて、帰ってからのことを全く考えていませんでしたが、今回の経験で災害時における職員の心理状態を疑似体験でき、よかったと思います。間もなく震災後1年を迎えますが、節目の時に心の疲れが出やすいと言われており、職員の心のケアの重要性が叫ばれています。市民安全政策課としても、災害時において職員の心理状態がどのようになるかを認識しておくことは参考になるのではないのでしょうか。

## 派遣報告書

総務部 林 直子 (任務：戸籍事務支援)

派遣先：岩手県大槌町

派遣期間：平成 24 年 1 月 3 日～平成 24 年 3 月 31 日

### 1. 市の概況

- ・人口：13,300 人（平成 24 年 3 月 1 日現在）
- ・市の面積：232.29 k m<sup>2</sup>
- ・地勢：岩手県沿岸南部の町。南は岩手県釜石市、北は岩手県下閉伊郡山田町と接している。海岸沿いの小さな範囲の平地に市街地が集中している以外は殆どが山間部である。

漁業以外は産業が少ない。もともと交通が不便な地域であったことや、近年は若年層の流出も進んでおり、過疎化が進んでいた。

【参考】震災前人口：15,994 人（平成 23 年 3 月 1 日現在）

平成 23 年 3 月から平成 24 年 2 月末までの転出者数：1,670 人

※このうち平成 23 年 5 月から 6 月末までに 972 人が転出した。

### 2. 被災状況

- ・震災による死者数：1,227 人（平成 24 年 3 月 31 日現在）  
内、行方不明者数：445 人（※） 身元判明数：782 人
- ※行方不明者数については、親族から役場に届出があったもの。実際はまだ多数、いるものと思われる
- ・町の商業や経済の機能の大部分が集中していた平野部はほぼ壊滅状態、少数の高台にあった家屋が被害を受けなかった程度である。
- ・町役場も全壊。町長以下全職員の約 4 分の 1 にあたる 40 人が死亡あるいは行方不明になった。
- ・町役場は屋上付近まで浸水し、行政文書や資料、電算機器も流失し、住



被災した大槌町役場

民の基礎となる住民基本台帳や戸籍も流失した。

### 3. 町及び役場における復興の進捗状況

- ・行政機能は旧役場から少し離れた町立大槌小学校の敷地に仮設庁舎を設置。昨年4月25日からはそこで業務を行っている。今年7月からは、大槌小学校校舎を改装して、新しい庁舎となる予定。
- ・業務については各地から来た派遣職員の支援で行っている。死亡または行方不明の職員のほとんどが課長級以上の管理監督職のほか、中堅職員だったこともあり、そのダメージは非常に大きく、全体的に行政能力の劣化や退化が見られるうえ、レアケースへの対応に遅れが目立っている。
- ・震災直後から、身元不明も含め、死亡届の届出が殺到したものの、システムが稼働していないためすぐには届書を受理できず、受付することしかできなかつたようである。

住基システムについては被災後、役場に残っていたサーバを回収し、業者に復元を依頼したところ復元に成功したため復旧が早かったが、戸籍システムについては、バックアップデータが平成23年2月末までしか法務局に残っておらず（法務局は被害なし）、暫定復旧させて同年4月13日から、住基システムとともに稼働を再開後、同月29日に戸籍の再製が完了したとのこと。
- ・現在も住民基本台帳カード発行、公的個人認証サービス、戸籍システムのうち身分証明の発行については停止している。特に、資格取得の関係で身分証明が必要な町民に対して「身分証明を発行することができない証明」を行政証明として無料発行して対応しているが、いずれも震災から1年が経過し、そろそろ対応できるように準備を進めていくことが求められている。
- ・平野部中心に昨年12月に大型のスーパーとホームセンターの複合施設がオープンし、だいたいの生活用品は買い揃えることが可能となった。しかし、町民のほとんどはそこでの買い物でしか必要なものが手に入れられないことや、公共交通機関もバスの便数が不足しており、車を失った被災者や高齢者にとってはますます不便な状況になっている。
- ・町民の多くは漁業や自営業に携わっていたものが多く、今回の災害で船や家が流失し、かなりの世帯が失業したと思われ、このことも転出者の増幅

の一因と考えられる。

- ・避難所や仮設住宅も山間部に建設され、ほぼ満員状態となっている。町民の生活拠点となっているにも関わらず、仮設住宅周辺へのスーパーや病院などの仮設店舗の進出は鈍い。

#### 4. 職場の様子について

配属された民生部町民課職員の構成は次のとおり。

箕面市でいう「グループ」が2班あり（町民生活班・国民年金班）町民生活班に所属。

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| ・課長   | 1名（町職員）                |
| ・班長   | 2名（町職員：町民生活班、国民年金班各1名） |
| ・主任   | 1名（町職員）                |
| ・主査   | 2名（町職員1名、派遣職員1名）       |
| ・主任   | 1名（町職員）                |
| ・主事   | 5名（町職員4名、派遣職員1名）       |
| ・臨時職員 | 5名                     |

---

計 16名

震災に関連した死亡届は減少しており、町民課の人数は適正に思われる。また他の町民に対応する課においても、震災関連の事務は落ち着きつつあり、新規採用の関係もあり、事務職の派遣は今後減少するだろうと思われる。



1月4日の辞令交付式の際に碓川町長と撮影しました

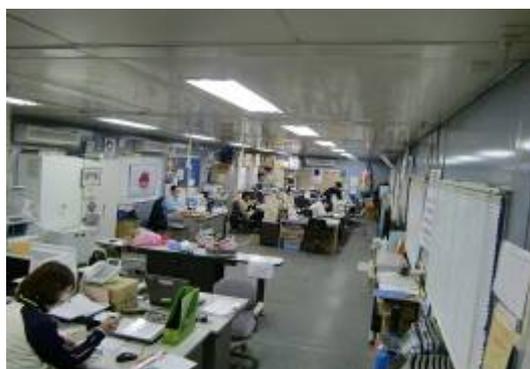
一方で都市整備系の職員が不足しており、派遣職員も都市整備や区画整理に携わった経験のある土木職や建築職の派遣が強く望まれている。

#### 5. 担当していた業務について

- ・主に戸籍事務を担当していたほか、住民票、戸籍全部（一部）事項証明発

行などを行っていた。残業はほとんどなし。

- ・この他に戸籍の附票の発行に向けた確認作業は派遣職員で担当。今回の震災で戸籍システムのデータも流失してしまい、戸籍については平成23年4月29日に再製が完了したものの、戸籍の附票は戸籍と異なり、住所を記録するもののため他市町村との連携が必要であった。大槌町に本籍があり、住所地が大槌町以外のかたの記録については国、都道府県、各自治体の協力を得て、震災までの一定期間の附票通知を大槌町に再送してもらい、入力確認作業を行った。その結果、今年1月末で確認作業が完了し、2月から戸籍附票の発行を再開することができた。
- ・通常、窓口業務は2月から3月は住民異動等の来庁者の対応で繁忙となる日が多いが、特に時間を割く転入者が少ないためか、あまり混雑する日はなかったように思われた。
- ・証明発行では、震災から1年を前にして遺族が相続や保険請求等の手続きに証明発行申請に来庁するケースが目立った。
- ・また、今年3月11日を境に、減少傾向だった「行方不明者の死亡届」をする遺族も目立った。



町民課事務所の様子

#### 【参考】東日本大震災による死亡届の種類（大槌町で受付したもの）

##### ①行方不明の死亡届（特例）

内容：遺体不明で震災（津波）による死亡と思われる死亡届。死亡診断書が添付できないため、親族からの申述により受理する。戸籍は死亡時刻を「平成23年3月11日午後不詳」とする。

##### ②戸籍法第92条第1項の死亡報告

内容：遺体の身元が不明の報告。警察署から報告される。

##### ③戸籍法第92条第3項死亡届（①を届出済）

内容：行方不明の死亡届により戸籍の記載が済んでいる者で遺体の身元が判明した場合の届出。①で戸籍記載が完了しているため、戸籍への記載は不要

##### ④戸籍法第92条第3項死亡届（①が未届出）

内容：①の届出をしていない者について、遺体が判明した場合の届出。

戸籍は死亡時刻を「平成 23 年 3 月 11 日推定午後 3 時」とする。

## 6. 大槌町での生活について

### (1) 住居及び近所の様子

大槌町に隣接する釜石市栗林町の仮設住宅に入居。部屋は4畳半とキッチン。バス・トイレは別。底冷えがひどく苦勞した。仮設ということもあり、強風で家が揺れることもあった。滞在中に玄関に風除室や網戸が設置された。栗林町自体は山間部であるため、震災の影響はさほど大きくなかったように思われる。

3月はほぼ毎日震度1~2の地震があり、3月14日午後7時前には、去年の震災と同所の三陸沖を震源とした震度3の地震が発生し、震災後初めて津波注意報が発令され、役場近所にいた私も高台の公民館に他の職員とともに避難する経験をしたほか、同月28日にも20時ごろに自宅で震度5弱の地震を経験をした。

### (2) 通勤について

大槌町の公用車を借りて通勤した。通勤時間は約20分。

車は休日も借りることができたが、ガソリンの給油について、負担区分（公費か私費か）が曖昧で必要最小限の外出しかできなかったことが悔やまれた。震災による道路上の障害物はほとんど取り除かれており、運転には支障はなかったが、信号や街頭の整備がまだ完全ではなく、夜間は暗闇である。

## 7. 被災地派遣を経験して

当初、派遣職員の内では、町民のかたから見れば、大槌町の間でもなければ、被災者でもないの、窓口対応では「よその扱い」されるのではと思っていたのですが、どのかたにも親切にいただき、こちらが逆に元気づけられることも多々ありました。箕面市と異なり、市外からの転入者が少なく、来庁者のほとんどは、昔から大槌町に住んでいるかたです。箕面市の窓口課に来庁する市民のかたに比べ、誰もが自分の故郷である大槌町を愛し、誇りに思い、職員と町民が一丸となって、復興に向けて前進しようとしていることは窓口対応をしていて常々感じました。

職場の穏やかな雰囲気、かきこまることもない中での手続きは、地域に密着

した良好な関係の中で行われ、職員も来庁者も気は楽です。

しかし、一方で職員の個人情報保護をはじめとした法律や条例に関する知識が浅く、町民の疑問への対応に相当時間を要することもありました。また、町民と職員が「知り合い」というケースも多く、条例や規則に定義されていない手続きの簡素化や町民の「甘え」も目立ちました。これらについては今後、窓口対応を行ううえでの課題になると考え、岩手県市町村課と大槌町町民課長に提言しました。どの業務についても、職員は住民に対して説明責任を果たす義務があり、「震災」を理由に対応が遅れることについても、そろそろ許されなくなりつつあります。今はまだ復興の途上ではありますが、今こそ、そういった点を見直し、職員が意識を変えることで、町民の意識を高揚させ、サービスの質をあげていくときではないかと考えます。

箕面市で勤務して20年、その半分以上を窓口課で勤務し、窓口業務のノウハウはある程度はわかっていたつもりでいましたが、大槌町に派遣され、業務内容はもちろん、その他にも改めてわかったこともありました。やはり、このような大規模の災害からの復旧にあたっては、役場機能の中でも、証明発行等の行政サービスは町民の生活に密着しているため、早期の復旧が肝心となることや、それゆえの臨機な対応が求められることもよくわかりました。

また、この他にも当たり前前の日常に感謝することや、人とのつながりを大事にすることも日々実感し、誰もが想像できない未曾有の災害で大切な人を失うことを思えば、もう少し、何事に対しても寛容になろうと思うようにもなりました。

この三ヶ月、人から必要とされることや感謝されることが多く、とても濃密な時間でした。私にできることといえば、仕事を通してなるべく元気に明るく振る舞い、町民のかたに笑ってもらうことくらいしかなかったのですが、それすらもありがたく思われ、かけられた言葉に逆に私が勇気づけられ、頑張ろうと思った毎日でした。災害派遣を経験した私がこれからやるべきことは、やはりこの現状を語り継いでいくことだと思います。

昨年の2月に第一中学校の生徒会が大槌町を訪問したことに関連しますが、私たちだけではなく、現在の便利さや豊かさに慣れてしまっていることが当た

り前の今の子どもたちにも、そのありがたさを知ってもらいたいです。阪神大震災の時の神戸市のような都市部での被害とは異なり、小さな町では復興はまだかなり先のことになると感じます。派遣期間は終了しましたが、今後も大槌町の復興を見守り、できる限りの支援を続けていきたいです。



大槌小学校グラウンドにある仮設庁舎



仮設住宅外観



仮設住宅の中の様子



**職員手記**

総務部 林 直子 (任務：戸籍事務支援)

派遣先：岩手県大槌町

派遣期間：平成 24 年 1 月 3 日～平成 24 年 3 月 31 日

**1. 被災地に赴くまでの出来事**

私は、平成 3 年 4 月に箕面市役所に採用され、最初の勤務先が市民生活部市民課に配属され、戸籍事務の担当として、8 年間市民課で業務を行いました。

私が市民課に在籍中の平成 7 年に阪神淡路大震災が起き、震災の起きた時間が真冬の早朝ということや、震源に近かった神戸市の被害が甚大であったことから、兵庫県内の自治体のいくつかは神戸市をはじめとした被災地支援のためにしばらく通常業務ができない状況となりました。

また箕面市の近隣市の兵庫県の自治体も被災状況は深刻で亡くなられたかたが多く、兵庫県内の火葬場だけでは火葬窯の数が不足し、箕面市にも震災に関連した死亡届が数件あったと記憶しています。

その後、平成 19 年度から再び、窓口課に配属され、一昨年 3 月 11 日に東日本大震災が起きました。この時、阪神淡路大震災の時の戸籍事務ことを思い出しました。同時にその夜からテレビで繰り返し流される映像を見て、これは、阪神淡路大震災のとき以上に大変なことになることも確信しました。

そして、ほぼ同時期に箕面市役所職員のうち、戸籍事務経験者に対して大槌町への派遣意向調査がありました。私は迷わず「行きます。」と答えたものの、その後、色々葛藤もありました。連日テレビで放送される津波の映像を見た娘から大槌町に行くことを強く反対されました。この時期、近いうちにまた大きな余震と津波があるおそれがあることが報道されていたからです。

私としては、戸籍事務が箕面市だけではなく他の自治体の役に立てる業務であること、これまでの自分の担当してきた業務の中で 1 番自信があったことから、未知な土地で役に立ちたいという気持ちが強くありました。

派遣期間は、昨年の 1 月から 3 月でした。花巻市内から、これからの 3 か月

を過ごすことになる仮設住宅がある釜石市に向かう電車の中で、娘から「お母さんが行くと決めたことなのだから、身体に気をつけてがんばって。応援しているよ。」とメールがありました。娘も私の頑張りを認めて応援してくれているのだということがわかり、これからの3か月間の生活を頑張ろうという気持ちを改めて奮い立たせてくれるきっかけとなりました。

## 2.大槌町役場で担当していた業務について

大槌町役場では箕面市での戸籍事務経験から、町民課に配属され、戸籍事務と証明発行事務を担当していました。その中でも、箕面市では経験したことない、衝撃的な業務がありました。「行方不明者の死亡届」です。



死亡届は死亡診断書や死体検案書が添付されて届出されるのが一般的ですが、そういった書類の添付がないまま、明らかにこの震災で死亡したと思われるかたの届を親族の申述に基づいて受付するという法務省からこの震災によって通達のあった特例的な届です。

行方がわからない、遺骨もない人を「死亡とみなす」、「戸籍から消す」ことに踏ん切りがつかなかった親族が、死亡届を出すということは、とても勇気がいることだと思いますし、その心情を考えると、感情移入してはいけないとわかっているにもかかわらず、とてもつらいものがありました。親族からの申述については、震災当時のこと、避難時の行方不明者の様子を聞き取りました。中には、怖く、辛く、不安だったその時のことを言葉を選び泣きながら、話してくれたかたもいました。この申述書を死亡届の添付書類として、戸籍消除の処理をしたことは、仕事とはわかっていても悲しく辛いものでした。

そんな中、私の話し方、役場付近の地理に土地勘がないことから、来庁される町民のかたもすぐに私が派遣職員であることに気づき、「遠いところからありがとう」とか、「関西と違って寒いから気を付けて」などたくさんお気遣いをいただき、ありがたく思うこともたくさんありました。「岩手日報」という岩手県の新聞で派遣職員として私のことがとりあげられたときも、わざわざ「新聞見たよ、ありがとう。」と言いにきてくれた町民のかた、「関西の人は元気だわ。

あんたとしゃべっていると元気になる。」とって手を握ってくれたかた、私自身がここで少なからず必要とされていること、役に立てていることを感じ、来て良かったと思えたことがたくさんありました。

### 3.最後に

震災からまもなく2年を迎えようとしている中、関西では、震災関連のニュースといえば被災地の状況よりも原子力発電のことの方が取り上げられるようになり、それすらも一時期に比べ、取り上げられかたが変化していています。

被災地の各自治体は復興に向けて人的にも財政的にも苦勞しているのが現状です。その人たちも、職員である前に被災者であり、かけがえのない家族や財産を失ったにも関わらず、復興に向けた公務に現在も追われ、泣く間もないまま業務をしています。震災直後は気を張って頑張ってきた職員や町民も時間が経過し、心身ともに色々なことに疲れており、体調面だけではなく、「心」のケアの重要性も今後、さらに課題になると思います。

最後になりますが、この大槌町への派遣を通じ、業務以外にも、当たり前前の日常が過ごせることの幸せや、人とのつながりを大切さも日々実感し、もう少し、何事に対しても寛容になろうと思うようにもなりました。

誰しも自分の心に痛い、辛い思いをした人ほど、人に優しくなれるものなのでしょうか。

決して卑屈にならず、少しずつではありますが、頑張ろうとしている大槌町の町民のかたの気概は私にも十分伝わり、逆に励まされて勇気づけられたあのころの気持ちを思い出すと、今がどれだけ辛くても、不思議と頑張ることができている自分がいます。

# 6. 草の根支援

## Contents

- 2011/03/12 義援金の受付が始まりました
- 2011/03/14 支援の輪が広がっています
- 2011/03/16 「救援物資」を積み込んだトラックが、被災地の釜石市へ出発しました
- 2011/03/17 被災地へ向けて、心温まるメッセージが寄せられました
- 2011/03/17 「救援物資」が無事、釜石市に到着しました
- 2011/03/18 3月19日からの3日間、箕面マーケットパークヴィソラで街頭募金やります。廣田遥さんも応援
- 2011/03/18 日章アステック株式会社から義援金 600 万円を受け付けました
- 2011/03/19 この3日間、救援物資の受付もやっています
- 2011/03/22 第一中学校の生徒会が義援金の街頭募金活動を行っています
- 2011/03/22 週末3日間に、さまざまな被災地支援活動が行われました
- 2011/03/23 被災地のかたに、温かいお風呂へ入ってほしい～4トンの冷凍車を改造して被災地へ～
- 2011/03/28 箕面発！冷凍車を改造した移動風呂が被災地で人気
- 2011/04/04 サントリーサンバーズが東日本大震災の義援金を呼びかけ！
- 2011/04/21 チャリティーブレスで箕面から被災地の子どもたちに元気を送ろう
- 2011/04/26 吹奏樂を通じて届けるエール
- 2011/05/18 色と癒しのチャリティーイベントによる義援金を受け付けました
- 2011/05/24 「手をつなごうコンサート」実行委員会から義援金を受け付けました
- 2011/05/28 関西から東北にエールを！空樂フェスタ 2011
- 2011/06/22 箕面市立豊川北小学校の4年生 66名が、被災地の小学生を励ますためにモザイク画を作成しました！
- 2011/06/30 箕面地ビールでおなじみ A.J.I.BEER さんから義援金をいただきました
- 2011/07/07 東日本大震災の支援体験を子どもたちに伝える授業

- 2011/07/21 おたふく手袋株式会社から、作業用手袋をいただきました
- 2011/08/22 大阪大学夏まつり実行委員会から義援金をいただきました
- 2011/09/14 (番外編) 救援物資を和歌山県新宮市へ届けました
- 2011/10/05 箕面市を出発した支援物資が無事に到着しました！
- 2011/10/06 「KARAOKE CAFE しぶおんぷ友の会」から義援金をお預かりしました！
- 2011/10/21 聖母被昇天学院中学校高等学校の皆さんから義援金をお預かりしました
- 2012/03/01 『忘れないで』岩手県大槌町・釜石市を訪問した第一中生徒会が、市長に結果報告
- 2012/03/09 箕面マーケットパーク visola で東日本大震災復興支援募金活動やチャリティーコンサートが行われます
- 2012/03/13 東日本大震災復興支援募金活動やチャリティーコンサートが行われました
- 2012/07/11 復興再開した被災地の小学校に、箕面市立豊川北小学校の4年生が箕面大滝のモザイク画を贈ります
- 2013/01/21 箕面市立第一中学校の生徒が募金活動中！～岩手県の大槌中学校に直接届けます～

## 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/12 義援金の受付が始まりました

箕面市役所で、東北地方太平洋沖地震に対する義援金の受付が始まりました。



受付窓口は、箕面市役所の1階ロビーに設置されています。3月12日（土曜日）午後1時に設置されて以降、箕面市ホームページなどを見たかたが次々と訪れています。

3月13日（日曜日）は、かやの広場（箕面マーケットパークヴィソラ）にも設置しています（領収書の発行はできません）。

また、箕面市職員の幹部会からも20万円の寄付が実施されます。

3月14日（月曜日）からは、箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターの窓口において、救援物資の受付窓口も設置されます。

## 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/14 支援の輪が広がっています

みなさんの、東北地方太平洋沖地震に対する善意の輪が広がっています。

昨日は、箕面マーケットパークヴィソラでも、義援金の街頭募金を行ったところ、通りがかった多くの人が募金してくれました。



昨日は日曜日で家族連れのかたが多かったので、多くの子どもたちも募金してくれました。

結果、3月12日（土曜日）、13日（日曜日）の2日間で箕面市役所1階ロビーで行った分などと合わせて、なんと300万円近くの募金額が集まりました。

また、今日からは、箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターで、救援物資の受付も始まりました。



毛布やタオル、インスタント食品など多くの救援物資が寄せられています。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/16 「救援物資」を積み込んだトラックが、被災地の釜石市へ出発しました

3月16日（水曜日）、箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターに寄せられた「救援物資」は、今井京阪神運輸株式会社のご協力によるトラックに積み込まれ、東北地方太平洋沖地震の被災地である岩手県釜石市へ出発しました。



箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、いち早く3月14日（月曜日）から、東北地方太平洋沖地震に対する救援物資の受付を実施しており、物資を被災地へ届ける手段に苦慮していたところ、今井京阪神運輸株式会社の今本建二さんが、岩手県釜石市への運搬協力を申し出られました。

今本さんは、阪神・淡路大震災で被災され、西宮市のご自宅が全壊した経験もあり、昨日3月15日（火曜日）から会社の前で、ご自身が所属しているNPOの活動として救援物資受付をされていました。箕面市が物資搬送に苦慮していることを聞きつけ、ともに運搬できればと今回のご協力となりました。



3月16日（水曜日）午後2時に10tトラックが到着。箕面市社会福祉協議会の職員ら約30人がリレー方式などで1時間弱、ボランティアセンターに寄せら

れたタオル、毛布、インスタント食品などの救援物資の積み込みを行いました。



10tトラックは、その後会社へ戻り、今本さんらが受付された救援物資を積み込んだ後、箕面市の災害用備蓄品（毛布、アルファ化米、水）を積み込んだ4tトラックとともに、午後4時30分、釜石市教育センターへ向けて出発しました。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/17 被災地へ向けて、心温まるメッセージが寄せられました

箕面市役所 1階ロビーに設置している義援金の募金箱に、3月15日（火曜日）、箕面市在住の小学2年生（女子児童）から、被災者へ向けた手紙『今回の地しんでこまっている人へ』を添えて、義援金1260円が寄せられました。



（手紙の内容）

『今回の地しんでこまっている人へ』

「このお金は、お兄ちゃんにおたん生日プレゼントのお花をかうはずだったお金です。ところがお兄ちゃんとそうだんして、ぼきんすることにしました。おたんじょうびプレゼントをわたしたつもりにしました。わたしは、せんそうで、心をいためさせてしまった、中国やかん国までたすけにきてくれているのがとってもうれしくなると思います。わたしは、そんな中国やかん国はやさしいなあ、ておもいます。なのではやく元気になってください。」

この児童は、小学5年生の兄にどうしても誕生日プレゼントをあげたいと、1年間、少しずつお金を貯金箱に貯めてきたとのことでした。

ところが、今回の地震の被災者のことを知り、募金もしたいけれど、兄にプレゼントも渡したいとの葛藤があり、泣きじゃくっていたそうです。

そこで、母親から「今の自分の気持ちを紙に書いてごらん」と伝えたところ、この手紙を書いたそうです。

中国と韓国の話については、兄に戦争の話をしているときに隣で聞いていたり、テレビのニュース番組などを見て何かを感じ取っていたのかもしれないとのことでした。

なお、兄の誕生日は3月12日（土曜日）だったそうです。

児童が寄附したこの義援金1260円は、児童が洗濯物をたたんだら20円など、いっしょうけんめいに家のお手伝いを

して母親からもらった分で、兄のために1年間こつこつ貯めていたものだそうです。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/17 「救援物資」が無事、釜石市に到着しました

3月17日（木曜日）午前10時35分、「救援物資」を積み込んだトラックが無事、釜石市教育センターに到着しました。



▲昨日、箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターから出発したときのようす

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

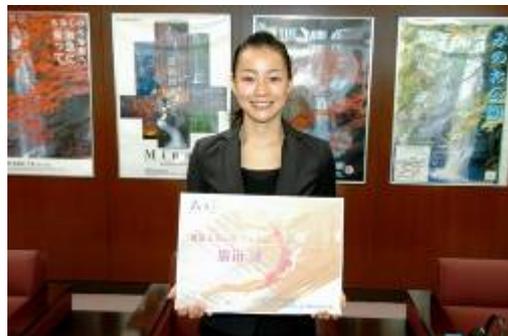
2011/03/18 3月19日からの3日間、箕面マーケットパークヴィソラで街頭募金やります。廣田遥さんも応援

箕面市では、3月19日（土曜日）からの3日間も、大型商業施設「箕面マーケットパーク ヴィソラ」でも、午前9時から午後6時まで、義援金受付活動を行います。



▲3月13日（日曜日）の街頭募金のようす

3月20日（日曜日）午前11時頃には、昨年12月の全日本トランポリン競技選手権大会で、前人未到の10連覇の偉業を成し遂げた、「箕面トランポリン大使」の廣田遥さんも「箕面マーケットパークヴィソラ」で、街頭募金活動に参加する予定です。



▲、「箕面トランポリン大使」の廣田遥さん

また、本日3月18日（金曜日）に行われた採用前懇談会に出席した、4月から市職員として新規採用される予定者も、箕面市の被災者支援活動の説明を受けて、その趣旨に賛同した13人が、街頭募金活動や救援物資の積み込み活動を行います。

## 撮られたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/18 日章アステック株式会社から義援金 600 万円を受け付けました

箕面市では、東北地方太平洋沖地震に対する義援金として、日章アステック株式会社から 600 万円を受け付けました。



箕面市では、3月12日（土曜日）から東北地方太平洋沖地震に対する義援金の受付窓口を設置しており、3月18日現在、市内公共施設 25カ所に受付窓口を設けています。

日章アステック株式会社さんからは、昨日3月17日の午後、箕面市役所1階ロビー窓口で600万円の小切手をいただきました。本日3月18日正午ごろ、倉田哲郎市長は、箕面市船場東にある日章アステック株式会社本社を訪れ、杉田章会長、杉田章一代表取締役社長に謝意を伝えました。

杉田章一代表取締役社長は、「テレビで被災されたかたのようすを見ていて、何かしたいけど何をすればいいのかという歯がゆい気持ちですが、私も社員たちにもありました。会社として、普段働いてくれている正社員60人、1人あたり10万円ずつで寄付したとして計算し、計600万円をお渡しした次第です。社員一同の気持ちです」と話しました。

## 撮られたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/19 この3日間、救援物資の受付もやっています

3月19日（土曜日）、20日（日曜日）、21日（祝日）の3日間、箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターでは救援物資の受付をやっています。



受付時間は午前9時～午後5時までです。

また、この3日間の間で救援物資の受付・仕分け作業などをしていただけるボランティアも募集しています。

## 撮られたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/22 第一中学校の生徒会が義援金の街頭募金活動を行っています

箕面市立第一中学校の生徒会では、東北地方太平洋沖地震で被災されたかたへの義援金の街頭募金活動を行っています。



第一中学校の生徒会では、普段からユニセフ募金活動などを行っており、今回の東北地方太平洋沖地震では、その被害の大きさから、「生徒会として何かできることはないか」と考え、街頭での義援金の募金活動を行うことにしました。

この募金活動は、3月16日（水曜日）から3月23日（水曜日）までの平日、5日間行われています。

義援金募金活動の場所と時間は以下のとおりです。

○阪急箕面駅西口：午前7時30分から午前8時15分

○スーパーマーケットみのおいかり前：午後4時00分から午後5時00分

○第一中学校北門と西門前：午前7時50分から午前8時20分

この日は、午後4時から「いかりスーパーマーケットみのおいかり」前で義援金募金活動を行いました。



募金活動を行った2年生の平田航（ひらたわたる）さんは、「今回の地震で、多くのかたが困っておられます。少しでも、被災にあわれたかたのために、お役に立てればと思って、街頭募金活動を行っています。ご協力をお願いします」と話していました。



3月16日（水曜日）から始めた義援金募金活動では、集計できている3月22日（火曜日）正午現在で、36万6千114円が集まっています。



#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/22 週末3日間に、さまざまな被災地支援活動が行われました

3月19日（土曜日）、20日（日曜日）、21日（祝日）の3日間、箕面市内では東北地方太平洋沖地震で被災されたかたへ、さまざまな支援活動が行われました。本当にいろいろなかたにご協力をいただきました。ありがとうございました。

#### 【義援金受付活動】

「箕面マーケットパークヴィソラ」で3日間、午前9時から午後6時まで、箕面市赤十字奉仕団など市民ボランティアのみなさんと4月から市職員として新規採用予定者などで義援金受付活動を行いました。



3月20日（日曜日）には、「箕面トランポリン大使」の廣田遥さんが街頭募金活動に参加いただき、東北地方太平洋沖地震で被災されたかたへの義援金の募金を呼びかけました。



**【救援物資活動】**

箕面市社会福祉協議会ボランティアセンターでも、3連休の間、救援物資の受付窓口を開けることにし、物資の受付・仕分け作業などに多くのボランティアが参加いただきました。



3月19日（土曜日）には、多くのかたから提供いただきましたタオル・毛布などの救援物資を被災地に送るために、万博記念公園まで搬送するための積み込み活動を行いました。



**撮れたて箕面ブログ掲載記事**

2011/03/23 被災地のかたに、温かいお風呂へ入ってほしい～4トンの冷凍車を改造して被災地へ～

3月22日（火曜日）、今井京阪神運輸株式会社のお風呂付きトラックが、被災されたかたに、温かいお風呂に入ってもらおうと被災地へ向けて出発しました。



今井京阪神運輸株式会社では、21日（祝日）、社員12人が半日掛かりで4トンの冷凍車を改造し、3つの「浴槽」と2つの洗い場を備えたトラックを作りました。



現地へは、ドラム缶を10缶積んだ4トン車とともに赴き、現地近くの清流で水をドラム缶に入れ、現地で調達した材木を燃やしてお湯にし、ポンプによりお風呂車にお湯を流すことで、お風呂を利用していただけのようです。



今回は、今本代表取締役ら5人がまずは被災地の岩手県九戸郡野田村へ向か

い、約1週間の滞在を予定しています。

今本さんは、「被災地のようすをテレビで見ている、お風呂が不足しているのを知りました。元々が冷凍車なので、お湯が冷めにくいと思います。早く被災されたかたに、温かいお風呂につかっていただき、少しでも避難所生活の疲れを癒してほしいです」と話しました。

今本さんは、阪神・淡路大震災で被災され、西宮市のご自宅が全壊した経験もあり、今回の地震では、会社の前で、ご自身が所属しているNPOの活動として救援物資受付をされていました。また、箕面市が物資搬送に苦慮していることを聞きつけ、会社として、岩手県釜石市へ救援物資を運搬されました。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/03/28 箕面発！冷凍車を改造した移動風呂が被災地で人気

3月23日の撮れたて箕面ブログでお伝えした、今井京阪神運輸株式会社の「お風呂付きトラック」が被災地で人気と報じられています。

箕面を3月23日（水曜日）に出発した「お風呂付きトラック」は、翌日に被災地の岩手県九戸郡野田村へ到着。以後、現地に滞在し、被災されたかたに喜ばれているようです。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/04/04 サントリーサンバーズが東日本大震災の義援金を呼びかけ！

4月3日（日曜日）、サントリーサンバーズの選手・スタッフ20名が、箕面マーケットパークヴィソラで、東日本大

震災の被災者支援のための義援金募金活動を行いました。サントリーサンバーズのみなさんが大声で支援を呼びかけると、たくさんの道行く人々が募金に協力していました。



サントリーサンバーズは、箕面市をホームタウンとするバレーボールチームで、Vプレミアリーグでは常に優勝争いをしている強豪チームです。また、従来からさまざまな社会貢献活動に積極的に取り組まれており、箕面市でも子どもの見守り活動などでずっとご協力いただいています。



この日集まった義援金は、4月6日(水曜日)に箕面市役所へお届けいただき、全額、日本赤十字社を通じて被災地の復興支援に役立てられます。

また、4月2日・3日の両日、かやの中央一帯で『visola さくらチャリティーイベント』が開催され、多種多様なブースとステージイベントにたくさんの市民が訪れました。こちらも、ブースでの

売り上げなどは、被災地の復興支援に役立てられるとのことでした。



#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/04/21 チャリティーブレスで箕面から被災地の子どもたちに元気を送ろう

4月23日(土曜日)・24日(日曜日)の午後1時から5時、チャリティーブレスをつけて被災地の子どもたちにメッセージを送る「がんばろう東北! 箕面から被災地の子どもたちに元気を送ろう!」が、箕面マーケットパークヴィンラで開催されます。

この催しは、東北楽天ゴールデンイーグルスと箕面青年会議所の共同企画で実施され、2個セット500円で



チャリティーブレスを購入いただき、1個は購入者自身が身につけて被災地を応援し、もう1個は作成いただくメッセージカードを添えて、箕面青年会議所のみなさんが、6月4日(土曜日)・5日(日曜日)に楽天イーグルスの公式戦後の被災地の子どもたちと選手とのふれあいイベント会場に届けます。なお、収益金は全額、被災地の子どもたちの支援にあてられます。

また、会場では、被災地の子どもたちに届ける千羽鶴を折っていただいたり、「たきのみちゆずる」との記念撮影会、楽天グッズが当たる抽選会なども開催されます。

箕面青年会議所理事長の坂東諭さんは「被災地域の子どもたちを直接支援できる方法がないかと楽天球団とご相談させていただいた結果、子どもたちの心のケアを目的とした事業を行いたいと互いの思いが合致し、東北楽天ゴールデンイーグルスとの共同企画にて開催させていただくこととなりました。

4月23日・24日で集まりました寄付金・メッセージ・千羽鶴は全て私たち箕面青年会議所メンバーが責任を持って直接仙台に赴き、被災地の子どもたちのためにお届けさせていただきます」と話しています。

【がんばろう東北！箕面から被災地の子どもたちに元気を送ろう！】

開催日時 4月23日(土曜日)・24日(日曜日) 午後1時～5時

開催会場 箕面マーケットパークヴィソラ

開催内容 チャリティーブレスの販売(収益は全て寄付)・被災地域の子どもたちへのメッセージカード作成、千羽鶴の作成、楽天グッズが当たる抽選会、たきのみちゆずるとの撮影会

〈現地(仙台市)でのイベント〉

開催日時 6月4日(土曜日)・5日(日曜日)〈予定〉

開催会場 クリネックス宮城(楽天本拠地スタジアム)

開催内容 被災地域の子どもたち(約150名)をご招待しての楽天対西武(ファーム公式戦)の試合観戦、試合終了後の楽天選手とのふれあいイベント、炊き出し・記念撮影・グッズプレゼント

※箕面青年会議所メンバーが参加

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/04/26 吹奏楽を通じて届けるエール

4月24日(日曜日)、箕面市立市民会館(グリーンホール)大ホールにて、第15回箕面市プラスフェスティバルが開催されました。



このイベントは、箕面市立中学校吹奏楽部(止々呂美、彩都除く)、箕面高校吹奏楽部、箕面自由学園高校吹奏楽部、箕面市青少年吹奏楽団、招待団体(豊中

市立第十四中学校吹奏楽部) が一堂に会して行う合同演奏会です。

今回は「東日本大震災復興支援コンサート」として、被災地の1日も早い復興を祈り、吹奏楽を通じてエールを送ることを目的の1つとして開催されました。



会場に設置された義援金箱

開場前から、会場入口には長蛇の列が。



ホールはたくさんのお客さんで埋め尽くされ、ほぼ満席状態となりました。



出演者は、息のあった演奏はもちろん

のこと、歌やパフォーマンスなど楽しい演出も加え、それぞれ個性豊かな演奏で観客を楽しませてくれました。



そして、最後には出演者全員による合同演奏が！



舞台上から客席の通路までを埋め尽くす出演者たち。横から、前から、後ろから、管楽器の音が会場中に響き、迫力満点です。



演奏した曲は「グリーンハーモニー」と「世界に一つだけの花」。被災地を勇気づけるために、いつもとは違う趣向で選んだ曲です。



約 400 人の出演者が一つとなって奏でる美しくあたたかいメロディに、会場からは大きな拍手が送られていました。



この日会場では、72,117 円の義援金が集まりました。ご来場のみなさまのあたたかいご支援に感謝い

たします。

(※この義援金は、日本赤十字社を通じて被災地の復興支援に役立てられます)

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/05/18 色と癒しのチャリティーイベントによる義援金を受け付けました

東日本大震災に対する義援金として、北摂 COLORS と特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのおから連名で 9 万 4886 円を受け付けました。



両団体は、被災地支援を目的に、5 月 8 日（日曜日）にみのお市民活動センターで「色と癒しのチャリティーイベント」を開催し、集まった参加費を義援金として寄附されました。

このイベントを企画したのは、それぞれの人に似合う色を分析・アドバイスするカラースタイリストの高田裕子さん。「被災地の人々を支援するために、自分の特技を活かそう」と思いついたそうです。「被災地支援をしたいけど、何をしたらよいかわからない、という参加者の気持ちを受け止め、色と香りで参加者を癒しつつ、参加費が義援金になることで参加者の“支援したい”という気持ちを満たすことができたのでは。」と語っていました。

また、もう一人の企画者である上田雅代さんは、「震災が起きた翌日から、箕面市の職員が休日返上で募金活動をしている光景を見て感動し、箕面市で支援イベントをすることに決めました。」と話していました。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/05/24 「手をつなごうコンサート」実行委員会から義援金を受け付けました

5月23日（月曜日）、東日本大震災に対する義援金として、「手をつなごうコンサート」実行委員会から148,550円の義援金を受け付けました。



「手をつなごうコンサート」は、RMO（Recorder Magic Orchestra）代表の成元雅子さんが「被災地の支援のためにチャリティーコンサートをしよう」と音楽仲間に協力を呼びかけ、4月29日（祝日・金曜日）にメイプルホール小ホールで開催されました。

日頃それぞれに活動している団体も、「被災地のためにできることをしたい」という思いは共通。成元さんの呼びかけに応じて、すぐに有志の団体が集まったそうです。福島県会津地方出身のかたの詩吟を含め、リコーダーやウクレレなど9つの団体が演奏を披露し、最後は会場全体で「ふるさと」の歌を合唱。

当日は、延べ約130人の参加者でホールがいっぱいになったそうです。会場に設置していた義援金箱にはたくさんの寄附が集まりました。「子どもたちもお小遣いの小銭を握りしめて寄附に来てくれた」と語るのは、共催団体の特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのお事務局長の須貝昭子さん。主催者のネットワークを通じて、箕面に来ている留学生など外国人のかたも大勢参加され

たそうです。

成元さんは、「被災地支援の気持ちを忘れずに、来年もぜひ開催したい。」と意気込みを伝え、市長も、「あさってから岩手県に行く。実際に現地を見た上で、本当に必要な支援は何なのかを考え、箕面からできる支援を呼びかけていきたい。」と応えました。



#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/05/28 関西から東北にエールを！空楽フェスタ 2011

5月28日（土曜日）、大阪国際空港（伊丹空港）で「空楽フェスタ 2011」（主催：大阪国際空港ターミナル株式会社）が行われ、箕面市も空港周辺市としてゆずると一緒にイベントに参加しました。



大阪国際空港を身近に感じていただくために毎年開催している「空楽フェスタ」ですが、今回は東日本大震災の発生を受け、「がんばろう！日本」をテーマに、来場者のみなさんに楽しんでいただ

きながらも東北地方の早期復興を支援するためのイベントが行われました。

オープニングセレモニーに登場した伊丹市立東中学校の地域活性隊の生徒さん達は、



オープニング後にはイベント呼び込みのお手伝い。



あふれる若さでイベントの盛り上げに大貢献！

そんなイベントの一つが、さくらんぼの種を飛ばして距離を競う、さくらんぼ種とばし大会！使われるのは、伊丹空港からの直行便が就航している山形空港の所在地、山形県東根市産の大粒のさくらんぼ！



飛ばす種を用意するため、まずはさくらんぼを食べられると知って、ゆずるもやる気満々！



……でしたが、小学生以下の「子どもの部」・中学生以上の女性の「レディースの部」・中学生以上の男性の「一般の部」のどれに参加すべきか迷ってしまい、参加断念。



「一般の部」の一位の方はなんと13メートルを超す大記録を残されました。

第10回 草の根支援フェスティバル

さくらんぼ種飛ばしグランプリ

種飛ばし大会 たたいまの記録 BEST3

	一般の部	レディースの部	子どもの部
1位	13 m 25 cm	9 m 90 cm	8 m 55 cm
2位	12 m 38 cm	8 m 80 cm	6 m 48 cm
3位	12 m 28 cm	7 m 11 cm	5 m 88 cm

また、空港周辺市のゆるキャラも大集合！箕面市のたきのみちゆずるをはじめ、池田市のふくまるくん、伊丹市のたみまるくん、川西市のきんたくん、豊中市のワニ博士が一堂に会し、会場を盛り上げていました。



ほかにも、マジックやバルーンアートなどのコミカルパフォーマンスや、



東北各県の特産品を扱う東北地方物産・観光展などが行われ、



台風が近づく中での開催にもかかわらず、多くの人でにぎわっていました。

せっかく空港に来たんだから、顔出しパネルで記念撮影しようとしたゆずるでしたが…



残念、やっぱり顔が入りきりませんでした。

## 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/06/22 箕面市立豊川北小学校の4年生 66名が、被災地の小学生を励ますためにモザイク画を作成しました！

東日本大震災の被災地の小学生を励まそうと、6月22日（水曜日）、箕面市立豊川北小学校の4年生66名が、福島県いわき市立永崎小学校の児童に向けて、動物などのモザイク画66点と「福島県いわき市立永崎小学校のみなさんあきらめないで！」のメッセージを一文字ずつ描いた26作品の合計92作品を完成させました。



この作品に取り組もうとしたきっかけは、始業式の日の子供朝会で、校長先

生から「震災で困っている人たちに、自分たちに何かできることはないか考えましょう」という話を聞き、児童自らが図工の授業で「被災地で頑張っている自分たちと同じ小学生を励ますために、元気が出るような作品を作って被災地に届けたい」と発案し、モザイク画を作成することになりました。

作品を送り届ける福島県いわき市立永崎小学校は、箕面市社会福祉協議会を通じて、福島県教育委員会から紹介していただきました。

現在、永崎小学校は、今回の東日本大震災の津波と地震により、校舎が被害に遭ったため、同じいわき市内の市立江名小学校の校舎を一部間借りして授業を行っています。

メッセージを含むモザイク画は、週に1、2時限ある図工の授業で、4月13日（水曜日）から2カ月以上（授業時間：計15時限）かけて作成したもので、作品は動物、花、昆虫、魚など、子どもたちに親しみやすく、見て元気になってもらえるものを児童自らが考え完成させました。



モザイク画の作品は、まずテーマを何にするかを考え、決めたテーマの輪郭をえんぴつと黒色のポスタカラーを使っ

て色画用紙に描いていきました。

その後、水をふくまないスポンジにいくつかの絵の具をつけて、白画用紙にたたいたり、パレットにいくつかの絵の具を出し、それをヘラで混ぜ合わせて白画用紙に塗ったりなどして、モザイク画のもとになるピースを作りました。

ピースは、親指の爪くらいの大きさにはさみで切り、最後にピースを色画用紙に貼って完成させました。



4年1組の稲中孝多さんは、「福島県が早く元のまちに戻って、元気になってほしい。」と作品に込めた思いを話していました。

同じく4年1組の山内桃佳さんは、「完成した作品を見てもらって、みんなが笑顔になってほしいです。」と話していました。

完成した作品は、明日23日（木曜日）に箕面市立豊川北小学校から発送し、明後日の24日（金曜日）にいわき市立永崎小学校の子どもたちへ届けられる予定です。



#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/06/30 箕面地ビールでおなじみA.J.I.BEERさんから義援金をいただきました

6月30日（木曜日）、A.J.I.BEER INCの大下正司さんが箕面市長を訪れ、東日本大震災に対する義援金として、11万6600円を手渡しました。



6月18日（土曜日）・19日（日曜日）に開催されたイベントの収益の一部を義援金として寄附されました。

いただいた義援金は、日本赤十字社を通じて、被災者の皆様のために使われます。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/07/07 東日本大震災の支援体験を子どもたちに伝える授業

7月6日（水曜日）、箕面市立中小学校で小学校1年生を対象に「震災支援学

習」が行なわれました。

ゲストティーチャーの一般社団法人  
インタープリテーションネットワー  
ク・ジャパン (IPNET-J) の皆さんが、  
道徳の授業において、東日本大震災の被  
災地支援体験について、スライドを使っ  
て伝えたり、被災された方からの手紙を  
朗読したり、被災地の子どもたちと遊ん  
だ切り絵パズルを楽しんだり、全員で  
「ふるさと」を合唱したり、小学校1年  
生の子どもの関心を高める分かり  
易い語りかけで、大人でも十分に楽しめ  
るライブ感あふれる授業を展開されて  
いました。

おかげで、中小学校の1年生たちは、  
とても集中して聞き入っていました。



切り絵パズル



完成した切り絵パズルを囲んで手紙の  
朗読



切り絵パズルは被災地の子どもたちも  
楽しみました。



集中して聞き入る子どもたち



「感謝の気持ち、助け合いの心を大切  
に」

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/07/21 おたふく手袋株式会社か  
ら、作業用手袋をいただきました



7月21日（木曜日）おたふく手袋株式会社の井戸端会長から、「被災地の復興作業を支援したい」と作業用手袋をいただきました。

いただいた手袋は、掌部天然ゴム加工手袋 25,000 双で、すべり止めが付いた作業用手袋です。



東日本大震災の被災地では、今まさにがれきの撤去等土木作業が行われており、手袋は欠かせない存在です。

おたふく手袋株式会社のご好意に応えるため、いち早く被災地へ届けます。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/08/22 大阪大学夏まつり実行委員会から義援金をいただきました

8月19日（金曜日）大阪大学夏まつり実行委員会の本間委員長と平井副委

員長が、7月9日（土曜日）実施された第32回大阪大学夏まつりで集めた義援金を持参されました。



この義援金は、夏まつり当日の募金箱に 20271 円 着付けコーナーで 10200 円 バザーで 17090 円 模擬店で 34000 円 写真部の皆さんが自分の作品を販売して 7200 円 合計 88761 円の義援金が集まりました。

本間委員長からは、「当日参加された皆さんの気持ちを一つにしました。日本赤十字社を通じて被災地の皆さんに届けてください」と倉田市長に伝えられました。

夏まつりのメンバーはこの義援金以外に、彩都の丘小中学校の子どもたちと一緒にメッセージボードをつくり、夏まつり当日やみのおまつりで展示をされました。

倉田市長からは「みなさんの気持ちを日赤を通じて被災地のかたがたに伝えていきます」と話しました。



## 【番外編】

## 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/09/14 救援物資を和歌山県新宮市へ届けました

箕面市は、台風 12 号で甚大な被害を受けた和歌山県新宮市へ、9 月 14 日（水曜日）、救援物資（非常食 2100 食、肌着セット 200 セット）を届けました。

また、市職員 4 名で新宮市までの運搬を行うとともに、現地では被災状況等を確認し、今後の支援活動へつなげる予定です。



この日午前 10 時に、救援物資の非常食 2100 食（野菜シチュー 2000 食、おかゆ 100 食）、肌着セット 200 セット（肌着、靴下、タオルのセット。男女 100 セットずつ。）を、箕面市所有の 2 トンダンプに積み込み、和歌山県新宮市の新宮市職業訓練センターをめざし出発しました。



物資搬送は、市民安全政策課職員 2 名、道路維持・土木施設担当職員 2 名の計 4 名で行い、救援物資の引渡し後、現地で被災状況などを見極め、今後、必要な支援について新宮市職員から情報収集を図るなどの活動をしました。



新宮市では、いまなお（9 月 13 日現在）避難所 10 カ所に約 90 人のかたが避難され、完全に孤立している世帯もあるとのこと。救援物資は避難所や孤立世帯へ届けられます。

箕面市市民安全政策課職員は、「箕面市もこれまで幾度か水害、土砂災害に見舞われており、今後も市として可能な限りの支援をしたいと考えています。一日も早い復旧・復興を願っています」と話しています。

## 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/10/05 箕面市を出発した支援物

資が無事に到着しました！

こんにちは。岩手県大槌町に災害派遣中の西田です。

7月28日から10月31日までの約3か月間、大槌町教育委員会事務局の職員として、被災した学校施設に代わる仮設校舎の建設業務などを担当しています。

さて、今日は10月3日（月曜日）に箕面市を出発した支援物資が無事に到着しましたので、その様子を皆さんにお伝えしたいと思います。

<釜石・大槌地区消防本部にて>

箕面市消防本部では、震災直後に釜石市と大槌町へ派遣していた消防職員16名から現地の悲惨な状況の報告を受け、箕面市防火協会会長と消防職員有志から集まった義援金で購入した防火服などの他、賛同いただいた消防装備品製造・販売企業など9社から無償で提供を受けた消防装備品を釜石市へ向けて発送しました。

10月4日（火曜日）の午後、消防装備品を乗せたトラックが無事に釜石市へ到着しましたので、釜石市の教育センター内に仮移転している釜石・大槌地区消防本部を訪ね、受け渡しをしてきました！



（釜石・大槌地区消防本部です。庁舎は津波により被災し使用できないため、仮移転しています。）



（お忙しいにも関わらず、早速試着してくださいました！）

箕面市消防本部の三上消防長から預かったメッセージを代読し、支援物品の目録などと併せて、釜石・大槌の千葉消防長へお渡ししました。

「厚意を無駄にしないよう、最大限活用させていただきます。」と感謝されていました。

<大槌町立小中学校仮設校舎にて>

引き続き、箕面市から同じトラックで到着した、小中学校用の教卓と書類保管用ロッカーを、9月15日に完成した大

樋町立小中学校仮設校舎へ届けてきました。

これは箕面市内の小学校から支援できるものがないか？箕面市教育委員会事務局で調査し、今回同時に発送したものです。



(壊れていないか？点検中です。)



(子どもたちは元気いっぱいに走っていました！)

「あれ？教卓は？」とと思っているうちに教卓は教室へ運ばれていきました。早速授業に活用されるようです。書類保管用ロッカーは職員室や会議室で活用されるとのことです。

支援物資の発送に携わっていただいた皆さん、無事に届けていただきありがとうございました。また、運搬をお願いしました「株式会社レボ・アクティマ」さん、おつかれさまでした。

<支援物資の状況など>

私が勤務している教育委員会事務局にも、全国各地の企業や個人の方から毎日多くの支援物資の申し出をいただいています。ノートや鉛筆などの学用品、ランドセル、児童生徒用の机、ピアノ、暖房器具などなど数え上げればキリがありません。

本当にありがたいことなのですが、残念なことに「支援をしたい！」と思われる気持ちと、支援を受ける側のニーズが合っていないというのが現状です。

上に記載した品々も、これまでのご支援のおかげで十分に足りており、「本当にありがたいのですが、お気持ちだけいただきます」と言って断ることがほとんどです。非常に残念な思いでいっぱいになります。

しかしながら、まだまだ不足している物もあり、今後も多くの支援が必要な状況が続いています。

この様なすれ違いを少しでも減らすために、支援をご検討いただく際には、遠慮せず、ぜひとも支援先へご一報いただければと思います。

私たち大樋町教育委員会事務局の職員も、「どの学校に何が必要なのか？」日々ニーズの把握に努めております！

ところで、話は変わりますが 9月30

日（金曜日）は釜石・大槌付近は「大潮」でした。

内陸部に位置する箕面市では聞きなれない言葉かもしれませんが、「一日の潮の干満の差が大きい状態のこと。」を言うそうです。

被災地では今回の震災によって地盤沈下があったため、満潮時刻が近づくと、少しずつ道路や岸壁が海に飲み込まれていきます。



（大槌町内の海岸線を走る道路の様子）

この道路は、大槌町の中心部へ通じる重要な生活道路です。写真奥が海、中央が道路、私の後ろには住宅地があります。

写真ではわかりにくいかもしれませんが、すでに海と陸地の高さが同じになっており、道路の一部が海に沈みつつあります。写真を撮影したのが夕方5時頃で、この日の満潮時刻は夕方6時頃でしたから、この後、道路が完全に冠水したかもしれません。（危険ですので、私はすぐにその場を離れました。）

大槌町に限らず、まだまだ被災した各地ではこの様な危険で不便な状況が続いています。一日も早く復興の日を迎え、この様な状態が少しでも早く解消され

ていくよう、残りの派遣期間も精いっぱい自分の役割を果たしていこうと思います！

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/10/06 「KARAOKE CAFE しぶおんぷ友の会」から義援金をお預かりしました！

平成23年10月5日（水曜日）に「KARAOKE CAFE しぶおんぷ友の会」の中西幸治顧問他役員等3名の方が、倉田市長に面会され、東日本大震災への義援金を手渡されました。

同友の会は、先日10月1日（日曜日）に市立メイプルホール・大ホールで震災復興支援のために『東日本大震災復興チャリティ歌謡祭』を開催され、その収益金すべてを義援金として持参されたものです。



日頃は、カラオケで歌うことを通じて会員相互の交流を深められていますが、『歌の“力”と“心”』で復興を！の合い言葉で、震災直後の今年4月から半年をかけて会員の皆さんが汗をかきながらの準備の末に開催されたものです。

歌謡祭は、午前10時から始まり、皆さんの歌も、東北応援のためか、東日本の歌をたくさん歌われ、最年少は19才

から最高齢 97 才までと幅広く、総勢 90 人の参加がありました。途中お昼には「たきのみち ゆずる」も登場して義援を募ってくれました。

会場は、熱唱につづく熱唱で、外の肌寒さとは反対にどんどん暑くなっていました。

夕方には、倉田市長もチャリティ応援のためにつけ、震災復興の支援を呼びかけました。

歌謡祭参加の皆さん、また開催スタッフの皆さん、義援金をありがとうございました。



#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2011/10/21 聖母被昇天学院中学校高等学校の皆さんから義援金をお預かりしました

10月20日(木曜日)に聖母被昇天学院中学校高等学校の生徒の皆さんが倉田市長に面会され、東日本大震災への義援金を手渡しました。



この日は、学校を代表して、生徒の大下さん、奥田さん、國司さん、教頭の三

宅さん、E.S.S 部顧問のトムソンさんら 5 名が市役所を訪れ、義援金募金活動や学校生活の様子を伝えました。



今回の募金活動は、「学祭爆走！ Funky Monkey Ladies～東日本に笑顔を～」と元気なテーマを掲げて 9 月 17 日(土曜日)に開催された学院祭で行なわれました。滝ノ道ゆずるも参加しましたヨ。

各教室に募金箱を設置するとともに、生徒の皆さんが懸命に働いたポップコーンやたこ焼きなどの模擬店の売り上げを合わせて、義援金の額は 23 万 4291 円にも上りました。



これまでも、学校では小中高の児

童・生徒が共同で学用品や手作りうちわを被災地に届ける活動もされています。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2012/03/01 『忘れないで』 岩手県大槌町・釜石市を訪問した第一中生徒会が、市長に結果報告



3月1日(木曜日)午後3時、岩手県大槌町と釜石市に義援金(計35万9274円)とプランター計8つ、メッセージカード500枚、絵本100冊を届けた箕面市立第一中学校生徒会役員6名(2年生4名、1年生2名)が箕面市役所を訪れ、倉田哲郎箕面市長に結果報告をしました。

第一中学校生徒会の2年生4名は2月17日(金曜日)から19日(日曜日)、箕面市立中学校生徒会を代表して大槌町と釜石市を訪問し、大槌中学校生徒会や仮設住宅に住んでいるかたとの交流、箕面市から現地へ派遣されている職員からの話の聞き取り、釜石市でのボランティア活動などを行いました。

(交流の様子)



↑おみやげのもみじの天ぷらが大好評



(仮設住宅にて)



(現地に派遣されている職員からの聞き取りの様子)



(現地の人から依頼された写真の洗浄作業ボランティアの様子)



そしてこれらの活動をまとめたビデオと報告書をもとに、1時間半かけて倉田市長へ結果報告をしました。

生徒達からの報告の中で、1年経った今もなかなか復興の目処が経っていないこと、箕面には分からない、実際の被害の様子を見て受けた衝撃などについて語られました。

さらに生徒らは、まだまだ継続的な支援が必要なこと、「東日本大震災」という災害を風化させないことの必要性を訴

えました。

生徒会長の今木沙恵さんは「事前に写真などを見て勉強をしていたのですが、想像をはるかに超える状態でした。1年経ったからある程度復興もしているだろうと考えていたのですが、それは全く違って、まだまだ復興の目処が経っていない状況でした」と話しました。

朝喜理沙さんは「現地の人と交流して、こちらが元気をもろうぐらい、みなさんが前向きで明るかったのが印象的でした。そして必ずおっしゃっていたのが『忘れないで』ということ。この経験を多くの人に伝えていきたいです」と話しました。

これに対し倉田市長は「偶然最初に市消防隊を派遣した先が大槌町と釜石市だったことからできた繋がりですが、この縁を今後も大切にして、どう継続的に支援していけるか、活動を広げられるかを考えていきたいですね」と話しました。

以下は今回第一中学校生徒会から提供を受けた、現地の写真です。

既に東日本大震災から1年が経とうとしており、関西には実感が薄れてきつつありますが、今回訪問した生徒会役員からの「風化させてはいけない」という思いを感じとっていただければと思います。



中学校と小学校4校の計5校の生徒が1つの仮設校舎で学んでいます。



熱でひしゃげたブレイカー



焼け焦げた教室



地盤沈下した道路



大槌中の生徒達のメッセージ



行く先々で残る爪痕

釜石市の「復興の鐘」



第一中学校生徒会は、この訪問結果を今後全校集会や大阪府内の生徒会が集まる「生徒会サミット」、寄付金などで支援を受

**東日本大震災復興支援活動**  
in 箕面マーケットパーク visola

日時：2012年3月11日(日)  
11:30~17:00 (雨天決行)  
会場：箕面マーケットパーク visola  
五反田駅西口付、箕面市民活動センター  
内容：復興支援金募金活動・復興支援のパネル展示

復興支援チャリティーコンサート開催！13:00-15:00  
出演：中野サユリ、LuckDuck、セーリング  
聖母峰昇天学院コーラスクラブ 聖歌隊

箕面市の復興支援報告ブース  
聖母峰昇天学院小・中・高  
消防車・自バイ展示  
ゆずる君 金型自動機展示  
最新防災グッズ展示

がんばろう NIPPON  
被災者、夢を掴み取り

けた各種団体へ報告・啓発を行うことを予定しています。

この活動を次の代へと引き継いでいくこと、継続的な支援・交流方法を形にしていくことが課題だとのことでした。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2012/03/09 箕面マーケットパーク visola で東日本大震災復興支援募金活動やチャリティーコンサートが行われます

3月11日(日曜日)に箕面マーケットパーク visola で、東日本大震災復興支援の募金活動やチャリティーコンサートが行われます。

日時:平成24年3月11日(日曜日) 午前11時30分～午後5時

会場:箕面マーケットパーク visola  
エルステージ付近、みのお市民活動センター

内容:復興支援金募金活動、復興支援のパネル展示、消防車・白バイ展示  
中野サユリさん、LuckDuck、セーリング、聖母被昇天学院コーラスクラブ聖歌隊のみなさんによる復興支援チャリティーコンサートも開催します。

被災地に支援に行った箕面市職員も、被災地での経験を語ります。

ゆずる君募金型自動販売機も展示します。是非、お越しください。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2012/03/13 東日本大震災復興支援募金活動やチャリティーコンサートが行

われました

3月11日(日曜日)、箕面マーケットパーク visola で、東日本大震災復興支援の募金活動やチャリティーコンサートが行われました。



中野サユリさん、LuckDuck、セーリングのみなさんが熱唱。

心があたたまる歌声でした。



聖母被昇天学院コーラスクラブ聖歌隊による清らかで美しいコーラス。



ゆずる君、募金活動に参加。ゆずる君の募金型自動販売機も登場。この自動販売機で飲み物を買えば、売り上げの一部が被災地へ送られます。



イオン防災グッズコーナー。事前の準備は大切ですね。水や電池の備蓄、家具の固定は大丈夫かな。思ったときに行動

しなくちや。



白バイや消防車にゆずるも大喜び。



被災地に派遣された市職員の現地での貴重な体験が聞けました。



被災地での市職員による支援活動や今すぐ家庭でできる事前の備えのパネル展示もありました。

### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2012/07/11 復興再開した被災地の小学校に、箕面市立豊川北小学校の4年生が箕面大滝のモザイク画を贈ります

東日本大震災で津波に襲われた小学校の復興再開を記念し贈呈するため、箕面市立豊川北小学校（中村 香校長、児童数 438 人、粟生間谷西 4-3-1）の4年生 81 名が、秋の箕面大滝を描いたモザイク画を完成しました。



豊川北小学校では、昨年 6 月、被災した小学生を励ますために、福島県いわき市立永崎小学校の児童に向け、動物などのモザイク画を作成し贈呈しました。当時、永崎小学校は、東日本大震災の地震と津波により校舎が被害に遭ったため、いわき市内の江名小学校の校舎を間借りして授業を行っていました。

モザイク画を受け取った子どもたちからは、「うれしかった」「元気がもたらされた」など心のこもったお礼の手紙が届き、作成した 4 年生の子どもたちも感激していました。



その永崎小学校が、校舎の修復を終えた場所に平成 24 年 3 月 19 日に再開したという話を、モザイク画指導の中田和成（なかたかずなり）先生が今年の 4 年生の子どもたちに伝えたところ、「支援を継続したい。再開の記念に今年もモザイク画を贈ろう」と子どもたちから声が上がリ、今回のモザイク画を作成することになりました。図柄については、永崎小学校から「箕面の良いところを知りたい」とのリクエストがあり、4 年生全員で紅葉が美しい秋の箕面大滝のモザイク画を作成することになりました。





4月11日から製作を始めたモザイク画は、図工の授業で3カ月（延べ38時間）をかけて完成したもので、縦約2メートル、横2メートルの大作となっています。



モザイク画の作品は、図案を全員で考えてから、まず画用紙を張り合わせ完成品サイズの紙に下絵を絵具で描きました。その後、下絵を一旦ばらばらにし、一人ひとりが各パートの紙に、画用紙を絵具で彩色し5センチ角ほどに切ったピースを張り付けて制作。それを今回合体し、一枚の作品に仕上げました。出来上がった作品を前に、子どもたちは完成した喜びと自分の学校に戻れた永崎小学校の子どもたちへの思いで満面の笑みを浮かべていました。



4年1組の平田歩輝（ひらたあゆき）さんは、「滝や岩などが立体的に見えるよう、ピースの色をちょっとずつ変えるのがむずかしかった」と今回の作品制作を振り返って話しました。

また、同じく4年1組の川崎ひなた（かわさきひなた）さんは、「被災地の人に元気になってもらいたい」と作品に込めた思いを話しました。

完成した作品は、乾燥させたのち、7月18日（水曜日）にいわき市立永崎小学校に贈られる予定です。

#### 撮れたて箕面ブログ掲載記事

2013/01/21 箕面市立第一中学校の生徒が募金活動中！～岩手県の大槌中学校に直接届けます～

東日本大震災で被災し、津波で被害を受けた岩手県大槌町立大槌中学校を支援するため、箕面市立第一中学校（石井

敬子校長、生徒数 622 人、箕面市新稲 3-2-1) の生徒会が募金活動を行っています。

生徒会の役員生徒は集めた募金を直接大槌中学校に届け、大槌中学校生徒会との交流や町内の見学を行う予定です。



第一中学校生徒会は、震災直後の 2011 年 3 月 16 日から募金活動を行いました。

その募金は日本赤十字に託しましたが、生徒たちは「直接被災地を支援したい」と 2012 年は箕面市が職員を派遣している大槌町の中学生を支援することに決め、PTA や地域みなさんに旅費などの支援を受け、集めた募金などを生徒会役員の生徒が直接大槌中学に届けました。

その時の訪問では、大槌中学校生徒会との交流のほか、仮設住宅の訪問や写真洗浄のボランティア活動を行いました。



<昨年、大槌町を訪れたときの様子>

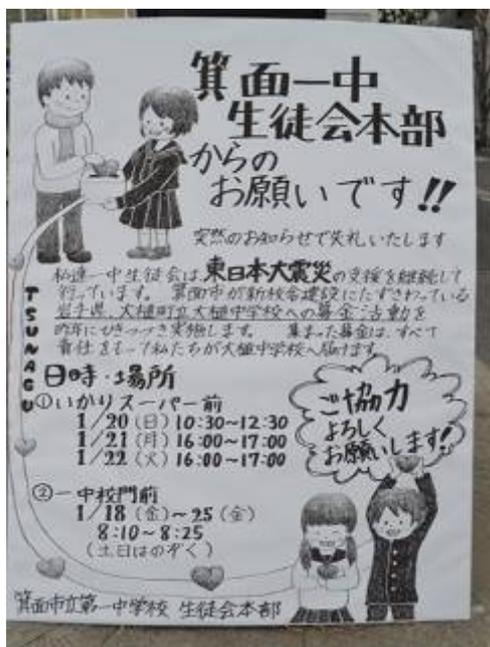
そのときに大槌町を訪れた生徒会役員の生徒らは、「震災のことを忘れてはいけない。自分たちが知ったことを箕面のみんなに伝えたい」との思いで、学校や PTA など 9 回も大槌町訪問の報告活動を行ってきました。



<倉田市長に報告した時の様子>

継続した支援を行うと決めていた生徒会では、今年度 5 月に募金を校内で実

施し、今回の街頭募金活動では役員6名が、地域に2000枚のチラシ・ポスターを配り、学校の校門前や市内スーパー前で募金の協力を呼びかけています。



生徒会では、今回と前回の募金と地域のかたから預かった義援金をあわせて、

今年も大槌中学校に直接届ける予定にしています。

今回は、生徒6名、引率教員2名、地域の大人1名の計9名が2月1日(金曜日)から3日(日曜日)に大槌町を訪れ、募金を届けるほか大槌中学校の生徒会との交流や町内施設の見学、被災したかたからの聞き取りを行う予定にしています。

生徒会会長の中塚一誠(なかつかいつせい・2年生)さんは、「復興状況など現地で見て聞いて学んだことをみんなに伝えることで、震災を風化させないようにしたい」と話していました。

#### ●募金活動

##### 第一中学校校門前

1月18日(金曜日)から25日(金曜日)  
午前8時10分から午前8時25分

##### スーパー前

1月20日(日曜日) 午前10時30分  
から午後0時30分

1月21日(月曜日)から22日(火曜日)  
午後4時から午後5時